流通とＳＣ・私の視点

2020 年 10 月 5 日

視点(2361)

（ＩＣＴ＆ネット市場編）

ＤＸと未来の流通(その１)!!

経済や社会や消費の変化から流通の将来予測は次の３段階によって可視化されます。

まず**現在**の把握	次いで**未来**の推定	最後に**近未来**を推定
基点 2020 年	基点 2030 年	基点 2045 年
1945 年(過去)から 2020 年(現在)までの経済や流通の動向の可視化	現時点で予測できる最終形の未来の経済や流通の動向の可視化	最終形を把握した上で、最終形に至るまでの過渡期レベルの経済や流通の動向の可視化

（１）現在の経済・流通の可視化

過去の日本を含む 1990～2020 年頃（30 年間）までの世界の経済・流通の成長を牽引してきたキーポイントは「グローバル化」と「技術革新」と「金融経済化」の三本柱です。

①グローバル化

第２次世界大戦後のインターナショナル化経済（貿易経済）に次いで 1991 年のソ連崩壊による東欧諸国の自由経済化及び後進国・発展途上国の成長による世界経済への参画により、ビジネスマーケットの拡大と国際分業が世界経済を牽引しました。

②技術革新

技術革新は、汎用型やパソコン時代の第１期からモバイル端末（スマホ等）やＳＮＳ（社会交流サービス）やアプリ＆コンテンツビジネスの旺盛化によりインターネット基軸の第２期へと進み、従来のリアル社会（空間）のみならずインターネット社会（空間）まで創出しして、ビジネスマーケットをフィジカル＆サイバー空間まで拡大して、世界経済を牽引しました。

③金融経済

金融経済は 1971 年のアメリカのドルの金本位制の廃止から兌換（だかん）（不換）紙幣の自由かつ大量発行からスタートし、その後の世界経済のバブルの崩壊や経済危機の救済において、継続的な金融の緩和（量的緩和と質的緩和）が行われ、世界経済を発展させました。直近では、コロナショックによる超超金融緩和は、コロナバブル（？）を発生させ、この影響は 2023～2025 年、最終には 2030 年まで続くことが想定されます。

（２）近未来・未来の経済・流通の可視化とＤＸ

2021 年から始まる近未来（2030 年）及び未来（2045 年）に向かっての経済・流通の発展の基軸は、技術革新の深化した「ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション・デジタルシフト革命)」です。グローバル化は、現在課題が続出していますが、全体的には着実に進みます。また、金融経済も現在課題が続出していますが、金融緩和による経済・流通への影響力は確実に高まります。この経済や流通のグローバル化や金融経済化は、過去の延長線上の動向として、近未来・未来へ引き継がれます。

しかし、技術革新の推進としてのＤＸは**「新たな発想（アイデア）とデータとデジタル技術を活用してビジネスモデルを構築すること」**によって、今まで以上の過去の延長線上ではない大変革が起こることが想定されます。

まさに、近未来（2030 年）及び未来（2045 年）は、デジタル革命としての技術革新が、パイオニア（デジタル化初期出現者）レベルからデジタルネイティブ（デジタル化に密接に対応）レベルから、本格的に基軸となるデジタルリードレベルとなり、そして世の中を一変させ、それが新常態化（当たり前化）します。古今東西、技術革新は経済・流通の糧です。

それゆえに、新常態化への対応レベルで企業の成長力は変化します。

イ．新常態化＞対応レベル

新常態に追いつかないレベルの対応で、淘汰あるいは長期低落化の道を歩みます。

ロ．新常態化＝対応レベル

新常態と同じレベルで対応、生き残りはできますが成長はしません。

ハ．新常態化＜対応レベル

新常態より対応レベルを完成度高く対応すると業界のリード企業となり成長します。

（流通とＳＣ・私の視点 2362 へ続く）

(株)ダイナミックマーケティング社[+8]

代　表　六（む）　車（ぐるま）　秀　之

Copyright (C) Dynamic Marketing Co. Ltd. 2020 All rights reserved.